長崎市立三川中学校　学校通信

「 響 」

第18号　令和8年11月10日（火）

文責　校長　上原敏勝

○人権週間（12/4～12/10）



12 月4日（金）から 12 月 10 日（木）までの「第 78 回人権週間」の期間中、本校では人権集会を実施します。現在、生徒玄関には、人権についての思いを共有するための“人権の木”が貼りだされています。

○期末テスト

先週、2 学期末テストが 2 日間にわたって行われました。いかがだったでしょうか。

テストとは、勉強したことがどの程度定着しているか確認するためのものです。では、そのテストで確認する主体は誰でしょうか。教師でしょうか。それとも生徒自身でしょうか。

もちろん、教師にとっては授業や指導の成果を確かめる機会です。しかし、それ以上に大切なのは、生徒自身が「何が分かり、何がまだ十分ではないのか」を確認し、次の学びにつなげることです。昔、友人が「電卓があるなら算数はいらないのでは」と話していたことがありました。今の時代なら、「AI があるなら勉強はいらないのでは」と考える人もいるかもしれません。しかし、本当にそうでしょうか。

AI はすぐに答えを出してくれます。ほんの数秒です。しかし、ここからが大事。何を問い、どの答えを選び、どう生きるかは自分自身が決めなければなりません。考え抜くこと、学び続けることが大切なのではないでしょうか。

これからの社会は、変化が激しく、予測が困難な時代だと言われています。正解のない課題に向き合い、多様な人々と協働しながらよりよい答えを探していく力が求められます。学校で学ぶことの意味は、単に知識を覚えることだけではありません。学ぶことを通して考える力を育み、自分らしく生きる力を身に付けることにあります。

「何のために学ぶのか」「誰のために学ぶのか」。ぜひご家庭でも、話題にしていただければ幸いです。

○防災

三川中学校は、平成元年 4 月に開校式典を挙行し、この三川の地に産声を上げました。以来、地域の皆様に支えられながら、幾多の卒業生を送り出し、その歴史と伝統を紡いでまいりました。平成元年（西暦 1989 年）に誕生したということは、国の新耐震基準が 1981 年からですので、校舎は国の新耐震基準に基づいて建設されており、生徒が安心して学ぶことのできる教育環境を整えているといえます。

（旧耐震基準では震度5程度を想定。新基準では震度 6 強～7 程度の大地震も想定。大地震でも倒壊・崩壊せず、人命を守ることを目標に作られる）

今年 7 月の熊本地震では最大深度7を観測しています。令和 6 年の能登半島地震も最大深度7でした。

本校では、2 学期に避難訓練を実施。教室の机の下に入るなどして身を守り、揺れが収まってから、第 2 次避難場所へ避難する流れは、非常にスムーズでした。

一方、大地震だけでなく、大雪等も含め、生徒が三川中学校に孤立した場合を想定した防災食の整備に向けて、PTA 役員の方々と話し合いを行い、次年度の整備に向けて動き出しています。

ちなみに・・・

TKB48 という言葉をご存じでしょうか。今から10年前の熊本地震以降に避難所・避難生活学会代表理事の水谷嘉浩氏らが提唱した考え方です。発災後 48 時間以内にトイレ・温かい食事・ベッドを確保する、という考え方です。日頃から、防災食以外にも簡易トイレなどの準備が必要かもしれません。